

「現役合格と浪人どっちが得？」(1)

新高3生の皆さん、さあ、受験勉強を始めましょう！

新高3生の皆さん、いよいよ受験学年に入りましたね。1年間は決して長くありません「がんばって第一志望に絶対合格」と宣言しても、1年の間には色々な誘惑があります。そこで、皆さんに、初心の誓いを忘れないようなお話しをご紹介します。 「〇〇大学に合格しなければ、浪人も辞さず」と言う人が多くいます。もちろん浪人してでも第一志望合格をめざすことは大歓迎です。学歴は一生背負うものだから、そのくらいこだわりがなくては、大学で専門的な勉強に身が入りませんよね。

では、浪人をする「何を得て、何を失うか？」ということを考えてみましょう。まず、得るモノは「念願の第一志望で、夢の超難関大学合格」という究極の成功を得る可能性が大いにあります。反面、全く何も得られないかもしれません。(予備校に卒業証書なんてありません。)

次に、失うモノについて具体的に挙げてみます。

たとえば、丸1年間の時間です。‘あなた’が実社会で活躍するスタートが延期されるのです。

そこで、「浪人時代のコスト」と「大学入学、4年で卒業、企業に就職した場合に得る給与等」を足すことにより、遺失したお金についてもおよそ見当がつくと思います。

浪人1年間の代償はいくらなのでしょう？(この計算例は、2010年度に名古屋市近郊から河合塾大学受験科・国公立文系コースへ通学したケースです。)

浪人時代のコスト(2010年度) ※

予備校関係(入学金・授業料・テキスト代・模試受験料など)・・・	780,000円
生活費(食事・通学定期券・被服・こずかいなど)・・・・・・・・	955,600円
来年の受験料(センター・国公立2校・地元私立5校と交通費)・	285,000円
小 計	2,020,600円

大卒1年目に得るはずだった給与(2014年度)※

給与 [H21 平均初任給 203,937円 × (12ヶ月 + ボーナス分 2.0ヶ月)] 2,855,118円

※ 自宅通学生の場合で 合計 4875,718円

「浪人」は結構高くつくものだと思いますか？ これだけの代償が発生するという事実を認識すれば、受験勉強に励み、けっして初心を忘れないでしょう。

結論

- 短期的には浪人は高くつく。
- 「下妻から通学」すると更に交通費がかかる。

次回は「現役合格と浪人どっちが得？」(2) - 浪人率を君は知っているかを掲載します。